

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハビー大宮桜木町2丁目教室		
○保護者評価実施期間	2024年7月20日		2024年8月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70	(回答者数) 64
○従業者評価実施期間	2024年7月20日		2024年8月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年8月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援環境の構造化及び清潔であること	清掃は、毎日朝礼後に職員総出で実施をしており、清潔な状態を維持するように心がけている。 支援室は、全て個室になっており、刺激が強くなりすぎないように、最小限の視覚情報の環境にしている。しかし、支援を行う上で、視覚的なヒントとなる情報や、プログラムを可視化するなどの構造化を行っている。	換気の心配が意見として挙がっているため、現在、朝礼後の清掃時や昼時間に行っているが、換気を忘れないように清掃同様に業務ルーティーンに組み込んでいく。
2	一人ひとりに合ったプログラムを構築するために、支援後に保護者さまとフィードバックを実施している。	毎日、来所されるお子さまの個別支援計画と直近の活動記録を確認して支援準備を行っている。また、保護者の方が来所された場合は、その日に行った支援内容とお子さまの様子を報告し、その上で支援の方向性の確認とお困り事などがなければ確認し、情報共有を図っている。	教室の構造化上、モニタールーム（開放スペース）でのフィードバックになることや集団療育後での一人当たりのフィードバック時間が短くなる課題が、いただいたご意見からも推察されるため、家族支援での面談などを活用し、保護者さまから要望があった場合は、個別での相談支援を充実させていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団療育において、プログラムの固定化する傾向が見られる。	集団療育において、参加してもらう児童の特性や発達段階を考慮して組み合わせるようにしている。しかし、それぞれの課題に対しての統合的なプログラムになるため、プログラムが固定化しやすい傾向が考えられる。職員からも意見として挙がっており、保護者からも集団プログラムへの意見が多く見られる。	集団療育については、移行支援・地域移行の考え方から重要な療育プログラムであるが、お子様が自らの力と他者の援助を合わせて対応・解決する力をつけるために、より段階的で柔軟なプログラムが必要であると考えられる。そのため、複数の職員でのプログラム考案と職員間で集団プログラムについての検討会を実施していくことが考えられる。
2	保護者への周知・説明をする機会が不足している。	不定期に保護者会などの会を開催しているが、全ての保護者の方に提供はできていない現状がある。開催にあたり、曜日・時間帯が限られてしまうため、都合がつかない場合に参加ができない場合が考えられる。	開催方法にICTを活用し、オンラインでの保護者会や平日の児童が学校へ行っている時間帯や土日等の休日で開催を行うことで、多くの保護者が参加できるように開催方法を検討していくことが考えられる。
3			